



TITLE:

支那關稅引上ト日本ノ紡績業

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 支那關稅引上ト日本ノ紡績業. 經濟論叢 1917, 4(5): 735-754

ISSUE DATE:

1917-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127200>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號五第 卷四第

行發日一月五年六正大

## 論說

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(一)……………法學博士 田島錦治

奢侈稅ノ辯難……………法學博士 神戸正雄

きんぐノ法則ト米麥價……………法學士 河田嗣郎

經濟心理學ノ組織的研究(四、完)……………米田庄太郎

支那經濟思想ノ出發點(二、完)……………法、文學士 小島祐馬

## 時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善……………法學博士 戸田海市

支那關稅引上ト日本ノ紡績業……………法學博士 神戸正雄

## 雜錄

米國ノ海外放資力……………法學博士 神戸正雄

獨領植民地ノ處分問題……………山本美越乃

移民ト米國ノ勞働……………米田庄太郎

米國聯邦農地貸附法……………法學士 河田嗣郎

# 支那關稅引上ト日本ノ紡績業

神 戸 正 雄

## (一)

曩キニ我政府ハ支那ノ參戰ヲ喜ハナカツタ。之ニ反對シタ。現内閣ノ出ルニ及デ四圍ノ事情ニ變化モアツテ對支方針ヲ變易スルニ至ツタ。聯合與國ト一緒ニナツテ、支那政府ニ對シ支那ノ參戰ヲ勸誘スルト同時ニ、其對償トシテ支那關稅ノ現實五分改定（支那政府ハ五分デハナクテ實ハ七分五厘、まっけ一條約ニ隨テ釐金稅ヲ全廢スルトシテ一割二分五厘ヲ希望スルトイフコトデアルガ、此ハ其影響ガ重大デ到底、一朝ニシテ問題トナラヌ。現實五分スラ日本ニ重大損失ヲ生ズルモノトシテ激烈ナル反對ノアル程デアアル。暫ラク現實五分トシテ此ニ論ズル）、團匪事件ノ賠償金支拂延期及借款援助ヲ內諾シタ。支那ハ之ヲ賴ミトシテカ否乎、既ニ對獨斷交ダケヲ行ツタ。而モ其ニ輿論ヲ從ハス爲メニ、日本等ノ內意ヲ發表シタ。尤モ其處マデハ彼ガ何カニツケテ最信頼スル所ノ米國ノ眞似ヲシタトモ見エル。併シ當サニ一步ヲ進メテ參戰シヤウトシテ未ダ決スルニ至ラナイ。既ニ米國ガ獨逸ト交戰關係ニ入ツタ所ユヘ、彼支那モ之ニ學ビサウデアアル、又之ニ學ブ外ナキ成行デアアルガ、初メニ聯合國側カラ參戰スルニ付キテノ對償ノ內約ヲ受ケテアツタノニ、

其ガ聯合國ノ内部ニ於ケル反對ノ爲メニ不確トナツテ來タノデ、流石ニ利益ニ執着心ノ強キ支那ハ之ヲ得ザレバトイフノデ參戰ニ躊躇シテ居ル。勿論支那ノ國情ノ下ニテハ、何ニカ大ナル利益デモ得ラレタトイフデナケレバ、政府反對黨ヲシテ參戰ニ賛成セシムルコトガ困難デモアラウ。彼國ノ内ニモ此交換利益ヲ離レテモ支那ノ地位ヲ進ムル爲メニ奮テ此際參戰スヘシトノ論モアルガ、未ダ之ニ靡クニ至ラヌ。實ハ日本政府モ嘗テ此問題ヲ輕々ニ考エ、關稅改定ヲ大シタ問題ニ非ズト思ツテ、與國ニ忠義立テノ積リデ一旦内諾ヲ與ヘタモノノ、其後國內當業者ノ反對猛烈ナルバカリカ、殊ニハ總選舉ヲ前ニ控エテ居ルコト故、之ガ公然ノ確答ヲ見合ハシテ居ル有様デアル。然ラバ則チ此支那參戰ノ利害隨テ關稅改定ノ影響如何ニツイテ一應ノ吟味ヲ爲スコトハ此際無用デハアルマイ。特ニ此關稅改定ニ對シ最強ク反對スルモノガ紡績業者デアリ、紡績業ハ我國ノ重要工業デアル事故、特ニ此事業ニ就イテ格段ナル注意ヲ拂フテ本問題ヲ吟味シャウト思フ。

## (二)

問題ハ先ツ支那ガ參戰シテ聯合與國側ニ立ツコトが果シテ日本ニ取ツテ利益カ否カトイフコトヨリ決シナケレバナラス。何トナレバ支那參戰ガ日本ニ取ツテ利益デナイナラバ、支那關稅ノ引上トイフガ如キコトハ頭カラ問題トスル必要ガナイカラデアル。尤モ現實五分程度マデノ關稅引上ハ支那參戰ト離レテモ問題トナリ得ルコトデハアルガ、今回ハ此參戰問題ト關聯シテ其代償ト

シテ現ハレタコトデアルカラ、此際ハ支那參戰ガ日本ニ取リ利益デナイナラバ、敢テ關稅引上ヲ問題トスルニ及バス。世間ニハ支那參戰ハ日本ニ利ナシトカ、甚シキハ日本ニ百害アツテ一利ナシトカ、與國ヲ利スルモ日本ヲ利セズトカイフ者ガ多イ。併シ其ニツイテハ予ハ日本ニモ利益デアルト思フ。重大ナル利益アリト思フ。他ノ與國ニモ利ヲ與フルガ日本ニモ利ヲ與フルト思フ。勿論此ニ支那ノ參戰トハ單純ナル參戰デナクテ、支那ガ進テ夫ノ巴里決議ニモ參加シ、戰時戰後ニ亘ツテ經濟上ニモ獨逸ヲ敵トシテ戰フトイフ決心ヲ爲スニ至ルコトヲモ含メル。若モ支那ガ此處マデノ決心ヲスルナラバ、支那ノ聯合與國側ニ就クコトハ日本ノ利益ナリト思フ。成程此參戰ハ先ツ直接ニハ獨逸ノ陰謀ノ根據ヲ斷チ、聯合與國ニ勞働者軍需材料ノ供給ヲ一層大ナラシメ、以テ與國ノ戰爭ニ利便ヲ與エルトモ、日本ニ格別直接ノ利便ハ與エヌガ、此故ヲ以テ支那參戰ガ日本ニ利ナシトハ餘リニ目前ノ利害ノミヲ見タル皮相ノ見解デアル。既ニ日本モ與國側ニ就イテ交戰國トナツテ居ル以上ハ、與國ノ便利ヲ飽迄計ル義務ガアル。與國ノ利益廳ガテ日本ノ利益ト考エナケレバナラス。與國ノ利便トナルヤウニ日本ガ進ンデ盡力シテコソ、初メテ日本ガ戰後ノ平和談判ニ際シテ日本ニ有利ナル條約ヲ結バシムル所以トモナル。日本ノ經濟上ノ利益ノ進メラルコトトナル所以デアル。之ニツキ日本ガ冷淡デアツタリ、傍觀ノ態度デアツタリ、反對ノ氣勢ヲ示シタリシテハナラス。然ルトキハ日本自身ノ不利ヲ招クコトニナル。前キニ袁世凱ノ時代

ニハ日本モ當時ノ事情トシテ參戰ニ反對セザルヲ得ナカツタデアラウガ、今トナツテハ之ヲ助成スヘキデアル。日本ハ舊テ此參戰ニ盡力スルコトトスヘキデアル。人ハ之ヲ以テ日本ガ與國ノ尻馬ニ乗ツテ馬鹿骨折スルモノトイフガ、其ハ實ハ日本自身ノ利益ヲ計ル所以デアル。之ニヨリテ日本ノ目前受ル所ノモノガ少クテ、外國ノ受ルモノガ大ナルダケ、其ヲ進ムル所ノ日本ノ盡力ガ十分ニ與國ヨリ理解セラルルコトニナレバ、日本ニ有利ナル結果ヲ生ズルコトナルヘキデアル。其ガ無駄骨折トナラザルヤウニ注意シ、十分與國ヲシテ日本ノ盡力ヲ承認セシムヘキデハアルガ、之ニ於テ盡力スルダケハ飽迄之ヲ爲ス方ガ、交戰國ノ一員トシテノ當然ノ義務デアル。又日本ノ大ナル利益ヲ收ムル所以デアル。

## (三)

此支那ノ參戰又ハ與國引入ハ目前ハ右イフ如ク日本ニ大シタ利益トナラナイニセヨ、多少永キ時ノ間ニ亘ツテ見レバ、矢張り直接ニ日本ノ利益トモナル。人ハ間々支那ニ於ケル從來ノ經濟上ノ敵國ガ英國デ、獨逸ノ如キハ敵デナカツタ。其ノ支那ニ於テ我ガ大敵タルモノヲ助ケテ、此大敵ノ爲メニ、敵タラザルモノ又ハ敵トシテモ小ナルモノヲ倒スノハ愚デアルトイフ。一見スレバ然ルガ如クデアルガ、其ハ單ニ過去ヲ見テ將來ヲ想ハザルノ失タルヲ免レヌ。成程從來ハ英國ノ方ガ日本ノ大敵デアツタガ、此ハ後ニ示スヘキ紡績ノ一例ニテモ明ナル如ク、既ニ下リ阪デアル。

將來ハ益々獨逸ガ日本ノ爲メニ大敵タラントシテ居ル。特ニ英國ノ如ク優等品製造家ハ支那ノ如ク低級品市場デハ日本ノ眞ノ競争者デハナク、比較的劣等品ヲ供給スル所ノ獨逸ノ方ガ末恐ロシイ。特ニ此戦争ノ動機ニヨリ、戦時及戦後ニ獨逸ガ聯合國側カラ原料ニツキ販路ニツキ驅逐セラルコトトナル以上ハ、支那ニシテ聯合與國側ニ加ラザルトキハ、獨逸ハ戦後ニハ中立國タル支那ノ利用ノ爲メニ全力ヲ盡スデアラウ。此時ニ當テハ細利ト雖モ忽ニセズ、執着勤勉ナル獨逸ハ日本ニ取り一層厄介ナル敵手トシテ現ハルデアラウ。若モ幸ニシテ今ノ内ニ支那ヲ與國ニ加エテ置クコトガ出來レバ、支那ガ獨逸ニ利用サルコトナキヲ得ル。而シテ勿論日本ハ英佛露伊等ト共ニ平等ノ立脚ニ於テ支那ヲ利用スルコトニハナルガ、此間ニ立ツテ日本ガ決シテ不利トハナラナイ。特ニ原料ニツキテハ英佛等ハ獨逸ト異リ、自國領土内ニ豐富ナル蓄ヲ有ツ所エヘ、態々遠イ支那ノヲ取りニ來ルニ及バス。結局支那ノ原料ハ日本ガ最多ク之ヲ利用シ得ルコトトナル。販路ニツキテモ、地ノ利ヲ得、且ツ低級品供給ヲ特徴トスル日本工業ガ最有利デアラウ。日本ハ既ニ巴里決議ニ參加シテ與國カラ原料販路ニツキ大ナル利便ヲ與ヘラルコトニナツタ筈デハアルガ、其ノ果シテ十分ニ與エラルヤニハ若干ノ疑ガアル。我ガ近クニアツテ日本トシテ最勢力ノ及ボシ得ル支那ヲ與國ニ引入レテ置クコトガ此等ニ於テ一層安心トナル所以デアル。成程日本ガ支那ヲ獨占的ニ利用スルコトガ出來レバ、其ニ越シタルコトハナイガ、即チ其ガ爲メニハ例之

日支關稅同盟デモ作ツテ、日本ガ支那ノ全原料ヲ利用シ、全市場ヲ左右スル地位ニ立ツコトガ出來ナケレバナラヌガ、其ハ到底世界ヲ敵トスル覺悟デナケレバ行ハレナイ。デ支那ニツキテハ假令少數ノ敵ヲモツノハ已ムヲ得ナイニセヨ、世界ノ有力ナル數多ノ國ヲ味方ニモツテ、名義上彼等ト平等ノ關係ニ立テ支那ヲ利用シツツ、而モ實際ニハ我が有利ナル素因ヲ以テ最優勝ナル地歩ヲ占ムルコトトスルノ外ハナイ。其ガ此支那參戰ニヨツテ達セラルル。日本ハ之ガ爲メニ努力シナケレバナラヌ。或ハ英佛露等ガ相結ンデ戰後モ獨逸ヲ經濟上排斥スル以上ハ、支那ガ此聯合與國ニ入ラヌデモ、獨逸ガ之ヲ利用シヤウト思ツテ船ヲ支那ニ送ルコトガ不可能デアリ、到底獨逸ハ支那ニ手ヲ伸バスコトハ出來マイ。トイフモノモアルガ、此ハ印度洋航路ヲ見タノデアル。併シ巴奈馬運河通過ノ米國航路モアルコト故、獨逸ハ英佛領地ヲ通ラズトモ、支那ニ來リ得ル。然ウ安心シテハナラナイ。

(四)

既ニ支那ノ與國加入ガ日本ニ取リ利益也トスルナラバ、日本ガ引入ノ爲メニ盡力スルコトハ當然デアル。之ヲ支那ニ勸誘スルコトモ當然デアル。必ズシモ之ヲ他國ノ尻馬ニ乗ツテ劬クト評シ去ルヲ得ヌ。併シ之ニツキ或犠牲而モ日本ニトリ重大ナル犠牲ヲ拂フコトトナルト、其ハ十分ニ考慮ヲ用キナケレバナラヌ。實際支那ハ機會ノ利用ヲ油斷セザル外交巧ミナ國民ユヘ、折角此聯



合與國ノ支那參戰希望ニ對シテ交換條件ヲ持出シタ。即チ彼ノ財政ノ缺陷ヲ救フ爲メ并ニ豫ネテノ希望タル稅權回復國產獎勵ノ目的ヲ達スル爲メニ、前記ノ關稅改定、賠償延期、借款成立ヲ持出シタ。中ニ就キ後ノ二ノモノハ大シタ異論ハナイガ、關稅改定ガ日本ニトリ重大損害デアルノデ大問題トナツタ。一體ハ此交換條件ガ多過グル。關稅改定ダケヲ拔キニシテ解決スルコトガ出來レバ、苦情モ起ラズ、簡單ニ解決セラルルカラ、外交官トシテハ斯クノ如クニ問題ヲ導クコトヲ努メナケレバナラナカツタ。之ヲ怠ツタノハ彼等ノ過失デアル。斯ク條件ヲ少クスルコトハ支那ニ對シテモ必スシモ無理ナコトデハナイ。何トナレバ支那參戰ハ日本及與國ニノミ利益デアルノデハナクテ、支那自身ニモ重大ナル利益デアルカラデアル。デ見様ニヨツテハ參戰ハ支那ガ自ラノ立場ヲ考エテ、與國カラ利益ヲ得ルト否トニ論ナク決スヘキモノデアルトモイヘル。現ニ日本ガ參戰シタノモ、單獨不講和ニ與ツタノモ、巴里決議ニ加ハツタノモ、日本ハ直接何等ノ報償ヲ得テ居ラヌ。支那ガ參戰ニ對シ報償ヲ得ヤウトイフノハ餘リニ慾張り過グルトイフベキデアル。支那參戰ガ何故ニ支那自身ニモ利益カトイフト、此度ノ戰爭ニテ獨逸ガ優勝ヲ占メタラバ、彼ガばるかん、土耳其方面ニ其地歩ヲ確立スルコトトナツテ、露國ハ勢ヒ再ヒ東亞ノ方ニ手ヲ延バシ、隨テ支那ニ壓迫ヲ加フルコトトナルデアラウ。支那ノ保全ハ到底維持シ難クナルデアラウ。此心配ヲ除クカ爲メニハ、支那モ進デ聯合國側ニ就イテ、與國ノ勝利ヲ進メ、以テ露國ヲシテ東歐西

亞ニ伸ビルコトノ出來ルヤウニシナクレバナラス。加之支那ガ將來經濟上發展セントシ、外資ヲ入レ導ク爲メニモ、獨逸側ヲ失フトモ、英佛側ヲ失ハザランコトヲ努ムルヲ利トスル。特ニ其國土ノ保全ノ爲メニ并ニ經濟上ノ發展ノ爲メニ、隣國タル日本ノ助力ニ待タザルヲ得ザルモノアル點カライフテモ、既ニ日本ガ聯合國側ニ立ツ以上ハ、支那モ此方ニ立ツヲ有利トスル。支那トシテ勝手ナ條件ヲ持出シテ、此ガ通ラナケレバ參戰セヌナドトイフヘキ筈ノモノデナイ。其ンナ態度デアルコトハ實ハ支那自身ノ不利デアアル。獨逸ヲ抑ユルコトハ支那ガ參戰セズトモ他ノ國々デ行フテ異レルカラ、支那ハ勞セズシテ、眠テ果報ヲ待タウトイフノカモ知レヌガ、其デハ支那トシテ其目的ヲ十分ニ達スルコトハ出來ヌ。矢張り支那モ後レ馳セ乍ラ、此運動ニ參加スヘキデアアル。又特ニ彼ハ參戰シテモ、別ニ大シテ犧牲ヲ拂フ要ガナクシテ、却テ物質勞力ノ供給引受ノ増加スルコトニヨリ利益ヲ受クル位デアアル。特ニ米國モ獨逸トノ斷交ヨリ進デ交戰關係ニ入レル今日ユヘ、支那ハ米國トノ關係カライフテモ最早參戰ニ躊躇スヘキデナイ。最早支那ハ靜カニ支那自身ノ利益ヲ考テ之ニ決心スヘキデアアル。代償マデ取ラウトイフノハ虫ガ良過グル。斯ノ如キ次第故、若モ日本ノ外交官ノ手腕ガ優レテ居リ、其智能ガ優レテ居ツタナラバ、或ハ此間ノ消息ヲ良ク支那政府ニ説キ聽カセテ、無代償デモ參戰セシムルコトガ出來タデアラウ。日本政府ハ既ニ關稅改定ノ内諾ヲ與エタトイフガ、其ハ過失デアツタ。此ハ一ツ交渉シ直シテ貰ヒタイ。借款ト

賠償延期ト位デ辛乏サスルヤウニ運動シ直シテ欲シイ。

(五)

デ一體ハ此際我ガ關稅改定ヲ讓歩セズトモ支那ガ支那自身ノ利益カラ參戰ヲ決スルコトナルヘキモノデアルガ、今一ツ此關稅改定ガ此參戰ノ條件トシテ不適當ナルコトハ、此改定ガ英佛露等ノ利益ヨリモ一層多ク日本ノ利益ヲ害スルガ故デアル。一方支那參戰ノ利益ハ少クトモ直接ニハ英佛等ヲ利スルコト大デ、日本ヲ利スルコト小ナル故、此ガ代償ヲ與フルトイヘバ、ムシロ英佛等カラ出スヘキモノデ、日本ノ出スヘキモノデナイトモイヘル位デアル。併シ實ハ其カラシテ日本モ直接間接ニ利益スルコト故、代償ヲ出スナラバ、英佛等ト平等位ナラバ出シテモ良イガ、關稅改定ハ日本ノ利益ヲ損スルコト英佛等ヨリモ遙カニ大トイフニツイテハ、到底此場合ノ代償タルヘキモノデハナイ。其故ハ第一ニ支那ノ輸入ニハ日本ガ他ノ何レノ國ヨリモ最多ク關係シテ居ル。英國ハ全帝國トシテハ之ニ最大ノ關係ヲモツガ、此ハ香港トイフ特殊ノ處ヲ含ム爲メデ、英本國ノミデ見ルト日本ニ及バナイ。左ノ如クデアル。以テ如何ニ支那ノ關稅改定カ日本ニ最多ク不利ヲ與フルカラ知ルニ足ル。

一九一四年支那全輸入ニ對スル各國ノ地位(%)

英 全 土	其内英王國	日 本	米國及布哇	獨 逸	露國及西伯利亞	佛 國
18.0	1.6	11.1	2.1	1.8	11.0	10.2

時事問題 支那關稅引上ト日本ノ紡績業

第四卷 (第五號 一二三) 七四三

第二ニハ其各本國ニ於ケル對支輸出ガ各本國ノ總輸出中ニ於ケル地位カライフテモ、日本ノ對支輸出ガ最重要デアル。此點カラ見テモ支那ノ關稅改定ガ日本ニ最大ナル損害トイフコトガ出來ル。其ノ關係ハ左ノ通りデアル。

一九一四年各本國總輸出中、對支輸出ノ地位(%)

日本	英王國	露國	米國	獨逸	佛國
21.7%	11.7%	11.4%	1.4%	0.23%	0.13%

第三ニハ英國品等ハ優等品デ支那デ出來ルモノデナク支那トシテハ輸入ニ待ツ外ナキ所デアルノニ、日本品ハ概シテ低級品デアリ支那ニモ產出シ得ルモノデアル。例之紡績糸ニツイテイフモ英國產ノ細糸ニ至テハ到底支那ニテ出來ナイモノデアルガ、日本ニテ出來ルホドノ中糸及太糸ハ何レモ支那ニテ出來得ルモノデアル。隨テ關稅引上ノ爲メニ英國品等ハ打撃ガ少カラウガ、日本品ハ之ニヨリ支那ノ國產ノ發達ヲ促ス丈ケ損害ヲ被ムルコトトナル。デアルカラ此支那關稅ノ改定ハ日本ニ最不利デアリ、斯カルモノハ參戰ノ代價トシテハ最不適當トイフコトトナル。尤モ日本トシテモ強テ反對トイフデハナイ。之ヲ參戰ノ代價トスルナラバ、其代價ガ日本ニ於テ最多ヲ拂ハレタコトニツイテ、十分與國一同カラ承認ヲ受ケ、戰後ノ日本ノ地位利益ニツキ十分ナル保證デモ得ラルレハ良イ。然ラザル以上、浮カ〜ト此代價ニ賛成シテハナラス筈デアル。我政府當局ガ之ヲ是レ計ラズ輕卒ニ内諾シタトスレバ、其ハ大ナル過失デアル。兎ニ角參戰ノ代價ハ或ル

ヘケハ此ニ依ラナイデムシロ借款トカ賠償延期トカニ依ルヘキデアラウ。何トナレハ與國ヲシテ關稅改定ノ日本ニ及ホス損失ノ重大ナルコトナドハ到底十分承認セシメルコトモ出來ズ、之ニ對シ相當ナル保證ナドヲ取ルコトモ到底出來難イコトデアルカラ。

## (六)

特ニ又此參戰ノ代償トシテノ關稅改定ニツキ注意スヘキハ、此丈ケ日本デハ日本ニ取り重大ナル犧牲ヲ拂ヒ乍ラ、支那デハ北方派ハ之ヲ得テ以テ、遠交近攻政策ノ賜物位ニ解釋シ、南方派ハ爲メニ北方派ノ財力ヲ充實スルモノトシテ日本ヲ恨ムコトトモナルデアラウ。勿論借款ノ成立、賠償ノ延期デモ矢張り南方派ノ怨ヲ買フコトニナルガ、其ハ致方モナイ。唯ダ關稅改定ノ如ク重大ナ犧牲ヲ拂フテ却ツテ怨恨ヲ買フノハ愚デアルトイフノデアル。特ニハ又關稅ノ改定ニ就テハ今日ハ其時機デモナイ。戰爭中デ世界物價ガ異常ナル變態ヲ示シ、特ニ銀相場ノ異常ナル事情ニアツテ前途ノ見境ノ附カザルノニ、之ヲ基礎トシテ改定スルノハ當ラ得ヌ。假令關稅改定ノ主義ヲ認ムルトシテモ、戰後物價平調ニ復シタ時ヲ待ツテ爲スヘキモノデアル。尤モ現實五分改定トイフコトハ既ニ日本モ一旦主義トシテ認メタ沿革モアリ、加之内諾トハイヘ政府當局ガ與ヘタ以上ハ、日本トシテ之ヲ實現セヌ譯ニ往カヌ。特ニ日支親善ヲ標榜シタ手前カライフテモ之ヲ實ニシナケレバナラストイフカモ知レヌ。實行ノ時期ハ延バスニシテモ、改定自身ハ是非此際承諾セサ

ルヘカラストイフカモ知レヌガ、前來説ク如キ故障又ハ損失ノアル以上、關稅改定ハ此際見合ハスノ外アルマイ。其ガ爲メニハ政府ヲ變エテ新規ニ相談シ直スノ外ナイカモ知レヌ。先年主義トシテ現實五分改定ヲ認メタトキハ附帶條件ガ支那ニ於テ氣ニ入ラナカツタ爲メニ其儘ニナツタノデ、今日其承認ガ活キテハ居ラス。其アル故ニ今日之ヲ認メナクレバナラストイフコトハナイ。若モ現在ノ內閣ニテ當ルトシテ、內諾ヲ尊重セサルヘカラストイフナラバ、後ニイフ如ク更ナル交換條件ヲ出シテ、我當業者ノ關稅引上ニヨリ受クヘキ損害ヲ補償又ハ少クトモ輕減スルコトトシナクレバナラス。

## (七)

偕テ此支那關稅ヲ現實五分ニ改定スレバ日本ノ國民經濟ガ幾許ノ損失ヲ受クルカトイフト、現在ノ支那關稅ガ平均三分五厘ニ當テ居ルカラ、此改定ハ一分五厘ノ引上トイフコトニナル。二億圓(詳シクイヘハ一九一六年ニ一億九千二百七十一萬圓)ノ日本ノ對支輸出ニ對シテ見レバ、年三百萬圓ノ損失トナル。之ニ子口半稅ヲ加フルト四百五十萬圓ノ損失トナル。之ヲ五分デ還元スレハ九千萬圓ノモノデアル。一見輕少ナルガ如クデ一大損失タルコトガ分カル。就中綿糸布業ガ最重大ナル損失ヲ被ムル所デ、其對支輸出額一億二千萬圓(詳シクイヘバ一億一千八百六十八萬七千〇二十七圓)、更ニ其中ニ就キテモ紡績綿糸ノ對支輸出七千餘萬圓(七千三百五十六萬四千〇二十

六圓)デ、結局此改定ニヨリ損害ヲ被ムル最主要ナル當業者ハ紡績業者トイフコトニナル。而シテ綿布類トイフテモ一大部ハ紡績業者ノ兼營スル所デアリ、其然ラザルモノニテモ結局原料ノ綿糸ハ紡績業者ノ供給スル所デアルカラ、前記一億二千萬圓ニ對スル二分二厘五毛ノ増税即チ二百七十萬圓ガ紡績業ニ懸ルモノト假定スレバ、彼ガ拂込資本金一億圓(一億〇一百七十四萬一千八百十八圓)ニ對シテ二分七厘ノ配當減ヲ生ズル勘定トナル。打算ノ明敏ナル當業者ノ反對スルモ無理デハナイ。勿論之ガ爲メニ日本ノ紡績業ガ倒レテシマウ程根底ノ弱イモノデハナイ。彼等ハ多年堅實ナル經營ヲ爲シ、現ニ豐富ナル積立金ヲ有シ、(四千八百九十五萬二千三百八十一圓)固定資本ノ原價償却ヲ十分ニシテ居ルノデ、平均一鍾ガ三十圓ニツイテ居ル。其勘定ナノハ五圓位ノモアル。之ヨリ現在一鍾ニツキ七圓程ノ儲ヲ爲ストイヘバ、二割以上ノ利益トナル。(一九一六年ノ平均配當ハ上半期一割九分八厘、下半期二割三分五厘)此ガ二分七厘ノ配當減ヲ生ジタトテ、紡績業ガ立つ能ハザルニ至ルトイフコトハナイ。併シ彼等ノ一ノ損失ニハ相違ナイ。特ニ既存ノハ其イガ、今新ニ會社ヲ起ストスレバ、戰爭ノ爲メニ機械ガ高クナツテ居ルカラ、一鍾百二十圓ニツク。之ニ對スル七圓ノ利益ハ五分八厘ニシカ當ラヌ。之ニ對シ二分七厘ノ配當減ハ殆ト堪ユベカラザル打撃デ、到底紡績業ノ擴張難トナラナケレバナラヌ。即チ此關稅ノ引上サヘナカツタナラバ、日本ノ紡績業ガドシドシ發達スヘキ運命ニアツタノガ、此ニ一頓挫ヲ被ムルコトト

ナツタ譯デアル。

(八)

一體日本ノ紡績業ハ支那ノ市場ニ於テ他外國ノ紡績ヲ驅逐シテ居ツタガ、併シ支那自身ノ紡績ノ發達ヲ抑制スルコトハ出來ナカツタ。日本綿糸ノ支那輸入ハ益々増進シタガ、併シ他方ニ支那綿糸ノ產出モ可ナリ増加シツツアツタ。支那市場綿糸ノ產國別ニ關スル左表ニ依ツテ分ル。

	一九〇六年	一九一五年
支那產	103,000 噸	300,000
英國產	11,000	11,000
印度產	21,000	35,000
日本產	21,000	48,000
他國產	1	1,700
計	156,000	495,000

デ日本品ハ支那產ヨリモ優勢デ、最優勢デアル。然ラバ何ウシテ斯クナツタカ。費用カライフト日本產綿糸ノ方一俵(今日ハ百八十圓許リ、戰前大正元三年平均百四十圓位)ニツキ八圓三十五錢(詳シタイヘバ所得稅營業稅附加稅ニテ二圓六十錢、支那ニ於ケル輸入稅ニテ三圓、運賃保險料利息等ニテ二圓、荷造費ニテ七十五錢ダケ支那ノヨリモ多費)ダケ多ク掛ツテ居ル。其ヲ日本ノ紡績ハ一減價消却ノ十分ニ行ハレテ固定資本ノ小トナレルコト(二設備ノ良好ナルコト(三混綿技術ノ進歩セルコト(四職工ノ技能訓練ノ進メルコト(五原料及製品ノ賣買ニツキ八ヶ月後マデモ安心シ



ヲ投機市場ヲ利用スルノ便アルコト（之ニ對シ支那ノ閭屋ハ薄資ニシテ信用スルニ足ラズ、銀相場ノ變動アル場合ノ如キ、逃ゲテ張ルヲ常トス）（六）船賃ノ安キコト（印綿ヲ支那ニ持行クトスレバ二圓掛ル所日本ニハ一圓ヲ要スルノミ）（七）金利ノ安キコト（銀行制度ノ完備）等ノ爲メニ補フテ居タ。作シ今茲ニ一俵ニツキ三圓十五錢戰前二年平均百四十圓ノ價ニ對スル二分二厘五毛ノ負擔ヲ増加スルトスレバ、能ク之ニ堪ユルヤハ疑ハシイ。勿論日本ノ紡績業ノ基礎モ強イシ、彼ハ内地ノ販路モ有ツコト故、内地ノ價ヲ高クシテ支那ニ於ケル賣價ヲ安クシ、所謂だんびんぐヲ行ツテ往クデモアラウ。ガ到底從來ノ如キ勢デ、凡ヘテノモノヲ壓倒スルコトハ出來ナカラウ。特ニ此關稅ノ保護ニヨツテ支那產デ益々優勢ニナツテ行クデアラウガ、從來トテモ日本產ノ發展度ト支那產ノ發展度トノ差ハ僅小デアルカラ、此丈ケノはんぢきやつぶガ日本綿糸ノ上ニツケラレテハ到底日本綿糸ニ勝目ハナイ。一體支那貿易トイフテモ綿糸ホド大切ナモノハナイ。支那ノ全輸入ノ三割一分ガ此綿糸綿製品デアル（一九一五年綿糸製品輸入一四二、〇二三、六八六、兩、總輸入四五四、四七五、七一九、兩）。之ヲ助成スルノハ支那貿易ヲ進ムル所以デアル而シテ日本ノ綿糸ハ未ダ支那全需要ノ三割二分ニシカ當ツテ居ラス所ユヘ、關稅引上サヘ行ハズ此儘ニシテ置ケバドシドシ發展シテ殆ト凡ヘテノモノヲ壓倒スルコトモ出來、大ニ我邦ノ全支那貿易ヲモ進ムルコトニナルヘキデアツタノニ、今此關稅引上ヲ敢テシテハ日本ノ支那貿易全體ヲモ阻止シナケレバ

ナラナクナル。

(九)

或ハ日本ノ紡績ガ支那關稅ニヨリ不利ニナルナラバ、(一)日本ノ紡績業者ガ支那ニ行ツテ之ヲ初ムレバ可デハナイカトイフモノガアル。此ハ併シ萬已ムヲ得ザルトキノ方策デ、成ルヘクハ工業ヲ日本内地ニ多ク止メルコトガ、日本ノ經濟上望マシイ。此ガ日本ニ在レバ、利子配當高級員ノ俸給ノ外、賃金モ日本ニ落レバ、之ヲ圍繞スル交通保險金融倉庫商業等ノ利益モ日本ニ落チ、財政上カライフテモ日本ヲ利スルモノガ多イ、デ出來ルダケ工業ガ日本内地デ行ハルルコトヲ選ムヘシトスル。特ニ支那ノ事業ヲ日本ノヨリモ有利トシタル爲メ支那ニテ開業スル者ハ日本人ノミデハナクテ、外國人が多カラウシ、特ニ米國人ノ如キハ最モ多ク之ニ目ヲ着ケテ居ル。米國ヨリ資本ヲ入レヤウトシテ居ル。其他一般外人ノ既ニ支那ニ放資セルモノノ利子配當及彼等ノ人的收入等ノ之ニ向ケラルルモノモ少カラズアツテ、日本ノミガ之ヲ利用スルコトハ出來ナイ。矢張り此ニ於ケル事業トイフテモ、銀相場ノ變動ヨリ生ズル損失ヲ輕減スル等ノ爲メニ、此ニ分工場ヲ建ツル位ナレバ良イガ、關稅引上ノ爲メニ相率テ日本工業ガ支那ニ移ルコトヲ進ムルノハ得策デハナイ。勿論支那ニ工業ガ發達スレバ、其ガ總ガテ支那人ノ日本工業品ニ對スル購買力ノ増加ナルガ、併シ其ノ支那ニ起ル工業ト同種ナル日本ノ工業ノ製品ニ對スル購買力ノ増加デハナク、

此ハ單ニ他種工業ノデアル。自然ニ彼ノ工業ガ發達スルノナラバ仕方モナイガ、態々人爲ニテ助成スルハ避ケタ方ガ良イ。若モ日本ガ支那ニ放資スルトスレバ工業ヨリハ原始産業、農鑛牧畜ノ方面又ハ交通業ノ方ニカヲ注グ方ガ、本國ノ爲メニ有利デアル。此方ナラバ放資上ノ利益ヲ收メツツ、我工業品ノ購買力ヲ確ニ増加スルコトガ出來ル。(二)或ハ又支那以外ノ販路ヲ擴張シタラ何ウカトイフ。成程其モ努メルニハ努メナケレバナラヌガ、一朝一夕ニハ出來ヌ。今日迄ノ處、日本ノ綿布類ノ支那輸出ハ總輸出ノ五割五分デアルガ、綿糸ノ支那輸出ハ總輸出ノ九割二分トイフ大部分ヲ占メ(一九一六年)テ居ル。此大切ナル支那販路ニ於ケル不利ハ出來ルダケ排斥シナケレバナラヌ。(三)或ハ又日本ノ紡績モ益々細糸ニ進ミ、且ツ織布ヲ兼ヌルコトニシテ、支那ニテモ出來ル如キ中太糸ヲ以テ立ツコトヲ止メタラ良イデハナイカトイフ論モアル。成程漸次日本ノ紡績モ此方ニ進ミツツアル。併シ何トイツテモ需要ノ大イノハ此中太糸デ、恰モ支那ニモ出來ル所ノ十六手二十手が最需要ガ大デアリ且ツ利益モ大イカラ之ヲ爲シツツアルノデ、當業者トシテハ此方デ折角利益ヲ擧ゲテ、事業ノ基礎ヲ益々鞏固ニシツツ、漸次細糸及織布ニ進轉スルノ途ヲ取ラウトシテ居ル。其ヲ今關稅改定ニヨリ助成セズシテ却テ妨害スルノハ彼等ノ最好マザル所デアル。

(一〇)

或ハ又關稅引上ヲ承諾スル代リニ(一)重要ナル原料ノ輸出稅ノ廢止(二)釐金稅ノ全廢(三)關稅引上丈

支那國產稅ノ賦課(四)關稅分類ノ細分(五)支那稅關ニ日本人增聘(六)居留地外ニ於ケル外人企業ノ許可等ヲ條件トシテハ何ウカトイフ考モアル。何レモ出來レバ日本ノ爲メニ有利デハアルガ、此ニヨツテ夫ノ關稅改定ニヨリ生ズル損害ヲ除クニハ足ラス。就中原料輸出稅ノ廢止ハ日本ノ將來ニハ益々重要デアルガ、目下ノ處ハ大シタ利益ヲ生ゼズ。日本ノ原料ハ今日ハ支那ヨリハムシロ印度濠洲米國等カラ多ク仰イデ居ル。問題トナレル綿花羊毛鐵ノ支那ヨリノ輸入額ハ幾許カトイフト  
(一九一六年)(千圓)

實綿線綿 1916 羊毛路駝毛 1903 銑鐵 1903 鐵鐵 1916

デ到底目下ハ二億圓ノ二分二厘五毛關稅引上ニ對スル代價タル資格ハナイ。特ニ日本ノ國民經濟全體トシテハ重要デアルニセヨ、箇々ノ事業、例之紡績カラ見レバ二億一千七百萬圓(一九一五年)ニモ上ル原料ノ中ニツキ一千五百萬圓(支那ヨリノ)ニ對スル輸出稅(其モ今日ハ一分五厘ホドニ當ルニ過ギナイ)ヲ免除サルルコトハ大シタ利益デハナク、到底彼等ガ一億二千萬圓ノ製品ニ二分二厘五毛ヅツノ増加負擔ヲ課セラルルノ損害ヲ償フニ足ラス。(何故ニ日本ノ紡績ガ支那綿ヲ多ク使ハザルカトイフト、支那綿ヲ日本ニ持來リテハ、支那紡績ヨリモ一俵ニツキ七圓高ク拂ハナケレバナラナクナルカラデアル。尤モ產地ニヨリテハ日本紡績モ支那紡績モ大差ナキ費用ニツクモアル。其レダケニ於テ日本ノ紡績ガ支那綿ヲ使用スルコトトナル)特ニ此輸出稅ハ大勢ハ

支那デモ減廢ニ傾ケルモノデ、早晚廢止サルヘキ運命ニアル。態々關稅引上ノ代償トスルニ及バナイ。特ニ今一ツ考ヘナケレバナラヌノハ、此輸出稅ノ廢止ガ日本等ヲ利スルノミナラス、支那内地ノ同業者ニモ利益ヲ與フルモノナリトイフコトデ、愈々以テ此カ重キヲ置クニ足ラザルコトヲ見ル。即チ支那デハ例之上海ノ紡績業ガ漢口天津ノ綿花ヲ使ヘバ、外國ニ行クモノニ對スル輸出稅ニ準ジテ沿岸稅ヲ取ラレテ居ル。輸出稅ノ廢止ハ自然此沿岸稅ノ廢止ヲ伴ハナケレバナラヌ。釐金稅ノ廢止ニ至テハ支那ノ如ク財政困難ノ處デハ到底無理デアアル。彼ハ年來之ヲ廢止スル代リニ關稅ヲ五分ダケ増課シタシトイフヲ居ル程デアアル。又之ヲ廢止シタ日ニハ日本等ノ支那輸入品ノ負擔ヲ輕クスルガ、總ガテ支那内地製品ノ負擔ヲ減ズルコトニモナルカラ別ニ有難クナイ。關稅分類ノ細分ヲ行フテ優等品ヲ高クシ劣等品ヲ安クスルコトモ一案デアアルガ、此ハ漸次日本ノ製品ガ優等品ニ移ラウトイフノヲ阻止スルコトニナルカラ、現在トシテ得策ノヤウデ、將來ノ爲メニナラナイ。支那稅關ニ日本人増聘ハ日本ノ支那貿易上有利デアアルガ、此レダケデハ勿論夫ノ關稅引上ヲ償フニハ足ラナイ。居留地外ニ於ケル企業ノ許可モ勿論良イガ、其レダケデモ矢張り夫ノ損失ヲ償フニ足ラヌ。關稅引上額ダケ支那ノ國產課稅ヲ爲スコトガ完全ニ出來レバ最良キ關稅引上ノ代償デアアルガ、此ハ到底凡ヘテノ物ニ行ヘナイ。特ニ中小工業ニハ脫稅ノ取締困難デアアル。行政制度ノ不完全ナル支那ニハ六ヶ敷イ。特ニ支那官憲ニ於テ自國工業保護ノ内意アラバ、到底實行困難デアアル。之ハ是非我財務官又ハ國際的財務官ヲ以テ監督スルヲ要スル。若モ

之ヲ海關ニ任カストスレバ、其監督ハ到底内地ニ及ヒ難キノミナラズ、白人稅關吏中ニハ現ニ收賄ノ弊モ多ク、彼等ハ自己ノ本國ノ利害ニ關セザルコトニハ一向無頓着トナル傾モアル。之ニ一任スル譯ニ往カス。今一ツ困難ナルコトハ居留地ニ在ル外國人及支那人ノ工業ニ課稅スルヲ得ザルコトデアルガ、此ハ結局製品カ居留地外ニ出ヅルトキニ課スルノ外ハナイ。孰レニシテモ面倒デアル。此課稅ガ全ク行ヘヌコトハナイガ、隨分面倒デアリ而モ數多ノ重ナル物位ニシカ行ヘナイデアラウ。是非トアラバ行フベキデアルガ、關稅引上ノ損害ヲ十分補償スルコトハ出來ナイ。

## (一)

斯ク支那關稅改定ハ重大ナル損害ヲ特ニ我國ノ當業者特ニ紡績業者ニ與フルモノデ、之ガ補償ノ途ノ不完全ナル以上ハ、而シテ支那參戰問題ガ支那自身ノ利益デモアル以上ハ、假令參戰ガ日本等ニモ利スル所アリトシテモ、關稅改定ト參戰問題トヲ引離シテ、參戰ニ對シテハ借款ト賠償延期トカニテ應報スルニ止メルコトニ交渉ヲ啟ムヘキデアル。併シ既ニ我政府ガ關稅改定ヲ參戰ト結付ケテ内諾シタ故、今更ラ交渉シ惡イトイフナラバ、或ハ内閣ヲ易エテ當ラシムルカ、其モ出來ナイ、政府ガ變ハツテモ關稅改定ヲ引込メル譯ニ往カヌ事情ニテモアリトスレバ、其補償トシテ不満足ナガラ重ナル物ニツキ支那國產稅ヲ關稅引上額ダケ課スルコト(綿糸ダケハ必ズ之ヲ要ス)ヲ初メトシテ原料輸出稅ノ廢止、支那稅關ニ日本人増聘、日本人ノ支那企業ノ便利等ヲ要求スルヨリ外ハナイ。